

## 令和2年度 授業改善推進プラン

### ◇ 国語科

1. 「大田区学習効果測定」の結果
① 4年生校内平均正答率は、基礎・活用とも目標値を上回っている。
② 5年生校内平均正答率は、基礎・活用とも目標値を上回っている。
③ 6年生校内平均正答率は、基礎・活用とも目標値を上回っている。
2. 「大田区学習効果測定」の結果から考えられる課題点
① 4年生では、国語辞典の使い方について課題がある児童がいる。
② 5年生では、資料と話合いの内容を関連付けて考える力に課題のある児童がいる。
③ 6年生では、話合いの内容を聞き取り、自分の立場や考えを伝える記述式問題に記述をしない児童や漢字の読み・書きに課題のある児童がいる。
3. 授業改善策
① 4年生では、授業中に国語辞典を使う機会を増やし、分からない言葉があったときは自ら国語辞典を使って調べる習慣づくりを行う。
② 5年生では、授業中に事実と意見、原因と結果など、根拠を基に分けて捉える機会を増やす。
③ 6年生では、記述式問題でもあきらめずに自分の考えを書く習慣を身に付けさせ、新出漢字の宿題を今後も継続して指導していく。

### ◇ 社会科

1. 「大田区学習効果測定」の結果
① 4年生校内平均正答率は、基礎は目標値を上回っているが、活用がやや下回っている。
② 5年生校内平均正答率は、基礎・活用とも目標値を上回っている。
③ 6年生校内平均正答率は、基礎・活用とも目標値を上回っている。
2. 「大田区学習効果測定」の結果から考えられる課題点
① 4年生では、写真の様子を読み取り、地図に示された情報と照合する力に課題がある児童がいる。
② 5年生では、消防の施設や設備について、その目的をもとに考察する力に課題がある児童がいる。
③ 6年生では、農作業に使われる機械や自動車の製作工程におけるプレス作業、太平洋ベルトについての理解に課題がある児童がいる。
3. 授業改善策
① 4年生では、地図帳を活用し、地図や地図記号、方角などを読み取る場面を増やす。
② 5年生では、施設や設備などの機能や目的を相互に関連付けて指導し、児童が自ら説明できるような場の設定を行う。
③ 6年生では、農業や工業における基礎的な知識について再確認する場を設定し、知識の定着を図る。

◇ 算数科

1. 「大田区学習効果測定」の結果
① 4年生校内平均正答率は、基礎・活用とも目標値を上回っている。
② 5年生校内平均正答率は、基礎・活用とも目標値を上回っている。
③ 6年生校内平均正答率は、基礎・活用とも目標値を上回っている。
2. 「大田区学習効果測定」から考えられる課題点
① 4年生では、波及的繰り下がりがある計算の技能にやや課題がある児童がいる。
② 5年生では、分度器を使って角度を読み取る力やひし形の作図に課題のある児童がいる。
③ 6年生では、小数×小数の積を求める計算に課題がある児童がいる。
3. 授業改善策
① 4年生では、波及的繰り下がりのある計算の意味を理解させ、導いた答えが正しいかを確認する計算の方法を改めて指導する。
② 5年生では、分度器の使い方を確認し、図形の性質を捉えて作図をすることができるようにする。
③ 6年生では、計算ドリルに確実に取り組み、基礎的な技能を定着させる時間を確保するとともに、放課後算数クラブでも同様の問題に取り組ませるようにする。

◇ 理科

1. 「大田区学習効果測定」の結果
① 4年生校内平均正答率は、基礎は目標値を上回っているが、活用は目標値をやや下回っている。
② 5年生校内平均正答率は、基礎は目標値を下回っているが、活用は目標値を上回っている。
③ 6年生校内平均正答率は、基礎は目標値と同程度だが、活用は目標値を下回っている。
2. 「大田区学習効果測定」から考えられる課題点
① 4年生では、「じしゃくのせいしつ」「植物の育ち方」の理解に課題がある児童がいる。
② 5年生では、「1年間の動物のようす」「天気のようにすと変化」「月と星」「物の体積と温度」の基礎的な内容の理解に課題がある児童がいる。
③ 6年生では、「天気の変化」「植物の花のつくりと実」「人のたんじょう」「電流のはたらき」「流れる水の働き」の知識の理解に課題がある児童がいる。
3. 授業改善策
① 4年生では、磁石は直に触れていなくても鉄を引き付ける性質があることや、ホウセンカは花を咲かせた後、実ができることを復習する。また、単元ごとのテスト以外に、理科ステップ学習を使用して知識の再確認を行う。
② 5年生では、基礎的な知識の定着のため、単元ごとのテスト以外に、理科ステップ学習を使用して知識の再確認を行う。
③ 6年生では、基礎的な知識の定着のため、単元ごとのテスト以外に、理科ステップ学習を使用して知識の再確認を行う。

◇ 生活科

1. 課題点
① 生活経験が少なく、季節の変化や自然への関心が薄い児童がいる。 ② 観察カードの記録や絵や文で何をかいてよいか分からず困っている児童がいる。
2. 授業改善策
① 日常の場面で季節や植物の話題に触れ、自然への直接体験を重視した指導を行う。 ② 授業の目的を明確化し、観察の視点を具体的に提示する。よくかけている観察カードを取り上げ、観察結果を共有するよさに気付かせるように指導する。

◇ 図工科

1. 課題点
① 造形活動の場面では、巧緻性に課題が見られる児童がいる。個人差が大きい。 ② 発想を豊かに広げられず、思い付いたことの表し方がわからない児童がいる。
2. 授業改善策
① 安全で正しい用具の使い方を指導するとともに、用具の使い方の視点を与えるようにする。 ② 作品を鑑賞する際には視点を示したり、児童同士で共有する場を設定し、自分の考えをより広げたり、深めたりするよさに気付かせる。

◇ 音楽科

1. 課題点
① 音楽のよさや美しさ、音楽の諸要素・音色の特徴などを聴いて感じ取ることができるが、発言に消極的な児童がいる。 ② 曲想にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもって演奏することが十分ではない児童がいる。
2. 授業改善策
① 音楽を形づくる要素を把握できるように、聴くときのめあてを明確に掲示したり、ワークシートを作成したりする。またペアや全体など意見交換の場を工夫し、共有するよさに気付かせる。 ② 旋律の動きや構成など、その曲の中で取り上げたい音楽的要素を明確にして捉えさせ、それを手掛かりにふさわしい表現を工夫させていく。

◇ 体育科

1. 課題点
① 日常的な運動経験が不足し、自分の体の動きを自分でコントロールできない児童がいる。 ② 心の発達及び不安、悩みへの対処への理解や感情のコントロールについて課題がある児童がいる。
2. 授業改善策
① 様々な運動経験をさせ、自分の体の動きをコントロールすることのよさに気付かせる。 ② 心も体も同様に発達すること及び心と体は相互に影響し合うことについて理解できるように指導する。

◇ 家庭科

1. 課題点
① 調理や裁縫など、授業では意欲的に取り組むが実際の家庭生活につながっていない児童がいる。 ② 衣食住の生活経験の豊富な児童と乏しい児童との差がある。
2. 授業改善策
① 自分の生活体験場면을振り返らせ、自分にできることを考え、家庭と連携して家族の一員としての役割を果たせるように指導する。 ② 長期休業期間中に宿題を出し、授業で学んだことを自らの生活に生かせるよさに気付かせる。

◇ 外国語科

1. 課題点
① 活字体の小文字を書く活動に慣れていない児童がいる。 ② 掲示やパンフレットから自分が必要とする情報を推測して読み取る力に課題がある。
2. 授業改善策
① 似ている文字を比べて違いに気付かせるなど、文字の特徴の視点を与えてから書く活動場面を増やすようにする。 ② 絵本や掲示、パンフレットなどを読む活動場面を設定する。